

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あやばにハウス		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 19日		～ 令和8年 2月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 19日		～ 令和8年 1月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○個別支援体制 保護者や関係機関からの情報、お子さんの日々の行動、アセスメント内容、個別支援計画を基に、お子さんの特性に合わせた支援計画を作成し、支援を実施することができています。 お子さんそれぞれに個別で関わる事で、丁寧にアプローチすることができています。	○支援スペースと安心して活動できる環境作り ・活動内容に合わせて十分な活動スペースが確保できるように職員同士で話合ってお子さんにあった環境設定に努めています。	○地域交流の機会 放課後児童クラブや児童館など、地域にある機関との交流が来ていない事が挙げられます。 交流できる機会を作れるよう努めていきます。
2	○情報共有 保護者や関係機関との情報共有では文章や口頭でのやり取りだけでなく、実際に活動している様子や成長した姿を写真や動画に収め、共有することでよりリアルに感じていただけている事が強みだと感じています。	○通いやすい雰囲気作り 木造の建物で立地も静かな場所なので、お子さんや保護者の皆さんから良い雰囲気だと好評をいただいています。 良い雰囲気を保てるように日々の清掃や危険箇所の確認を徹底し、安心して利用していただけるよう必要な訓練・研修も行っています。	○HPやSNSを活用した情報発信 「マルシェ」や「夕涼み会」など地域の方にも参加していただけの行事を開催していますが、事業所の情報を発信し、知っていただくという観点に置いては十分に活用できていないため、情報を更新しながら保護者や地域の方に事業所の活動を知っていただけるように工夫をしたいと思えます。
3	○専門職によるアセスメント 社会福祉士・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士と、幅広い専門職が在中しており、1人のお子さんのアセスメントをそれぞれの視点で行い情報共有をしています。 そうすることで、生活・運動・言語・コミュニケーションにといった様々な視点から支援をすることができています。	○研修 職員の資質向上を目的に研修に参加し、学んだことを事業所内で共有することで事業所全体で同じ方向性の意識を持って支援をできるよう努めています。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○個別スペースの確保 送迎時間の変更などで利用時間が重なった際に、十分な個別スペースを確保できない状況になってしまうことがあります。	○アレルギー対応の改善 医師の指示書に基づくアレルギー対応は実施しておらず、保護者さんから情報をいただいて対応しています。日々のおやつ提供は行っていませんが、月1回のクッキングワークが安全に行えるように努めていく必要があります。	○防災・安全計画の強化 ・定期的な安全点検を実施します。 ・ケアニーズが高いお子さんの個別対応マニュアルの作成を関係機関と一緒にいきます。
2	○支援と送迎のバランス 支援終了後すぐに送迎に出ないといけない時や、お子さんの支援が連続するがあり、余裕のない時間が生じってしまうと感じる時があります。		○職員の研修参加の促進 令和7年度は人員不足もあり、十分な研修会への参加を実現することができませんでした。 今後は研修会にも積極的に参加し、支援プログラムの強化を目指します。
3			